



(様式2)

平成29年11月24日

京丹後市議会議長 様

会派名 丹政会

代表者氏名 池田 恵一

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1 日程

平成29年11月16日(木)～18日(土)

2 場所

- 日本青年館(東京都) 16日～17日
- 池袋サンシャインシティ(東京) 18日

3 目的

(研修会)

- 第22回 清溪セミナー
テーマ：高齢者と地域活性化 他

(調査研究)

- 全国の“食”が集まる「ニッポン全国物産展」を視察し、各地域の名産や特産品、技術を生かした新商品などの動向を調査する。

4 該当する政務活動費の用途項目

研修・調査研究

5 支出経費の内訳と金額

経費合計 319,504円(内訳別紙参照)

6 参加議員名

- (研修会) 池田恵一、谷津伸幸、中野勝友、東田真希
- (調査研究) 池田恵一、谷津伸幸

7 調査研究成果の概要、所見

(研修会概要)

- 第22回清溪セミナー報告書(別紙)

(研修会 所見)

清溪セミナーは、地方議員有志により運営され、22回目となる今回は「高齢者と地域活性化」をテーマとして提案頂いた。

岡山県高梁市川上診療所菅原所長から「医療版コンパクトタウン」については、高齢化が進む中山間地において病院や高齢者施設をまちの中心に置くことで高齢者が安心して生活できるまちづくりや実際に若者の雇用を生む取り組みの事例が報告された。

流通経済研究所折笠主任研究員からの「高齢者等買い物弱者への対策と地域活性化への道筋」について基調報告の後、グループディスカッションで参加者それぞれの地域で高齢化がもたらす課題と取り組みについて意見交換を行った。

常任講師福岡政行先生からは、頻発する高齢者ドライバーによる交通事故に対して「運転免許返納政策の実現」についての提案を頂いた。

本市においても人口減少・高齢化における様々な課題が、浮き彫りになる中、地域の状況に合わせた政策の展開が必要であり、特に福祉を基点としたまちづくりは、今後、小規模多機能自治や小さな拠点づくりを進める上で、欠かすことのできない視点であると感じた。

(調査研究 所見)

今回、全国商工会連合会が、全国47都道府県から360以上の出展者を募り、3,000点以上の当地自慢の名産・特産品を集めた日本最大規模の物産展が開催された。当日、多くの人で賑わう中、本市からも出店があった。

会場を回ったところ、食に関するものが殆どであり、試食やその場で購入して食べることもできた。それぞれに創意工夫が見られた。ご当地フードとして名の通ったものから、名物と呼ばれているものをアレンジした物など、食による地域おこしの可能性を改めて感じた。

8 成果物、資料等

- 清溪セミナー資料1及び2（非公開）
- むらおこし特産品コンテスト



第22回 清溪セミナー

【講義Ⅰ】地域包括ケアシステムを内包したコンパクトなまちづくり

高梁市：岡山市、倉敷市まで約60km

地域包括ケアシステム（法）



地域包括ケアの本来の意味（国の法整備ができる前からある）

⇒ すべての地域住民の人生に継続的に関わる医療・ケア

※ 人生の全てに関わることを前提とすることで、持続することができる。

川上方式（高梁市川上町の地域包括ケア）

- ① まちづくりのデザイン
- ② 在宅医療
- ③ 地域でのがん患者の看取り
- ④ 在宅医療コーディネーター

施設が老朽化したから建て替える = × ⇒ まち全体をトータルにデザインする考え方が必要

住民生活を支えるためには、

医療・福祉サービスをその中心に据えなければならない。

= 地域包括ケアとコンパクトタウンを一体化したまちづくり

※ 高梁市川上医療センター

- 診療所
 - 外来
 - 病棟→高齢者住宅に転換
 - 在宅医療
 - 歯科
- 介護老人保健施設ひだまり苑
 - 入所・短期入所
 - 通所リハビリテーション
- 訪問介護ステーション
- 地域包括支援センター

総合病院ではないが、住民からは高い満足度を得ている。（アンケート結果）

まちづくりとは

住む人が幸せに暮らせる地域をつくること

あるべき方向性を目指し、現状の課題を解決すること

まちづくりのあるべき方向性

誇りを持ち、心豊かに暮らせるまち、の実現をめざして。

※ 人口減少の一番の問題は、その地域の誇りを失うこと。

川上方式

- まちの中心に医療・介護・住まいの複合施設
- 限られた専門職が効率的に
 - 一人の専門職が一人前に仕事をすることで採算があう。
 - 人数が少ないと8割程度の仕事しかできない
- 診療所が高度な「総合診療医」としての機能
 - 診断をつけるで紹介することで、治療後のフォローができる。
 - 単に紹介すると、診断を大病院が行うことで、治療後も大病院へ行かないといけない。
- 在宅医療
- 医療の御用聞き
 - 看護師が患者の生活状況までチェック
 - コミュニティーの拠点になっていく

↓↓いかえると↓↓
- 独居・高齢者世帯に対する支援体制
- 限られた医療リソースの有効活用
- 地域医療特性や診療実態に即した医療供給体制

複合施設を中心に据えたまちづくり

- 多機能化
- 供給体制の包括化
- 地域づくりの場⇒住民が主な担い手

超高齢社会の医療のあるべき姿

治す医療 ⇒ 支える医療

人権として緩和ケアを考える

苦痛や不安を和らげることは人権であるというのが、ヨーロッパの考え方。
住んでいる地域で緩和ケアがうけられることも大切。

高齢者住宅「絆かわかみ」

中山間で農業従事者が多く国民年金だけでも利用できる施設を目指した。
⇒ 地域住民による NPO 法人が運営（通常 15 万円/月⇒7 万円/月）
ボランティアの協力、地域住民の寄付、老健からの配食サービスなど

老人保健施設でのがん患者の看取り

- ・ A群：在宅緩和ケアから看取りのため入所
- ・ B群：病院や介護施設から自宅のある地域での療養希望
- ・ C群：認知症など入所後のがん診断

⇒年齢を重ねるほどガンになりやすい。⇒認知症を持ったがん患者の地域での看取りの重要性

在宅医療連携の課題

- 看取りケースのケアプラン
- 在宅医師との連絡
- 県南の病院との連携

⇒在宅医療コーディネーター（看護師、保健師のスキルアップ）

かかりつけ医との窓口

ケアマネからの医療的な対応に関する問い合わせにも対応

ケアマネへの情報伝達だけでなく、提案・提言も

幸福にとって重要な要因（経済的に豊かになった社会では）

- コミュニティ
 - ◇ 人と人との関係
- 自然環境とのつながり
 - ◇ 日の光
 - ◇ 緑
 - ◇ せせらぎ

- 精神的・宗教的なよりどころ

※ 人生の最終段階の療養として、家の力が大きい

まとめ

福祉のまちづくりは、雇用を安定するには重要な要素。施設をつくっても専門職は来ないが、役割を明確にし、コミュニティの拠点とすることで、雇用を生み人が定着する。

【質疑】

Q：人口減少が顕著な地域では、人材確保もままならない。どうすれば体制を構築できるのか。

A：看護師の確保も難しいので、職員が誇りを持つことができ辞めなくなる。成果を示して成功体験を重ねることが大切。そうしたことを発信することで新たな人材が入ってくる。6名の看護師。地域の中にはたくさん仕事があるので、一人一人にしっかり仕事をして貰う。

Q：亡くなる前の医療費に多くが費やされる。在宅は大切だがどうすれば良いか。

A：医療費のために在宅をする訳ではない。患者の幸せのために何をするか。治療が必ずしも幸せとは限らない。意思決定として、アドバンスケアプランニング＝対話をしながらそのプロセスを大切にする。余裕がある段階で、医療者と一緒に考えていく。今後の課題として、医療者の時間をどうとるのか。書くことが余命宣告ではなく、十分に元気な段階で、最悪に備えて準備をしておく。

Q：医療介護は、必要な反面、給料が安く人材がはく保出来ない。

A：医療介護の生産性は決して悪くない。しっかり仕事をすることで給与は確保できる。利用率や稼働率によるが、ふつうは介護報酬で賄える。

Q：在宅医療の最も課題になるのは夜間診療ではないか

A：気になる患者には夕方に電話して、聴き取りをすることで、夜間に呼ばれることは殆どない。訪問看護で対応できるケースも多い。予め工夫することで対応できる。

Q：地域医療包括ケアシステムの総合的な構築が必要と思うが

A：今住んでいる方にどう向き合うのか。地域振興は行政が考えること。医療機関としては今住んでいる人を如何に守るのか。

【講義Ⅱ】買い物困難者対策と地域活性化への道筋

農水省と連携して買い物困難者対策のコンサル

買い物困難者の問題発生

- ① 人口減少と少子化で、小売店が立ち行かなくなる
- ② 交通機関の撤退・廃業
- ③ 大型店舗の出店
- ④ J Aなどの統合

⇒ 統計データからは、売り場面積は増加、店舗数は減少。

買い物困難者対策の採算性確保のポイント

- ① 別事業で稼ぐ（CSR的な取り組み）
 - ② 範囲の経済を聞かせる
事業リソースとプロセスの共通化・標準化
 - ③ 粗利率をあげる
サービスが付加されているので、販売額を見直す。
自社製造製品を販売する。
受注商品を増やすことで廃棄ロスをなくす
 - ④ 生活カバー率を上げる
 - ⑤ 住民の協力を得る
- ⇒ 商業振興、高齢者福祉、交通弱者問題などを含んでくる。

地域で食などの生活を考える協議会を立ち上げる。⇒ 現状把握 ⇒ 実証実験 ⇒ 効果検証

※ 情報共有することで利害調整ができ、対策を創出する。

行政のかかわりとして

- 補助金などの資金面
 - ◇ 国や省庁の補助金獲得
 - ◇ 自治体単独の補助
- 資金面以外での連携
 - ◇ 住民や各団体との調整
 - ◇ お墨付きを与える
 - ◇ その他。
- 横断的な連携
 - ◇ 共益性の拡大
 - ◇ 高齢者、公共交通、商業など部署横断的な支援
 - ◇

[質疑応答]

Q：病院などの交通にも課題があるが

A：分散している取り組みだと解決が難しい。買い物、病院、銀行、役所などを機能として近づけるか。

Q：移動販売に見守り活動を委託することで補助した例はあるか。

A：事例はあるが、補助がないと回らない仕組みとなり、高齢者が増えると行政負担になる。

【グループディスカッション】

Aグループ

免許所の返納

NPOの有償移送サービス

診療所の送迎車での買い物（黙認）

学区単位でのお出かけ支援事業（運転手は地元自治会、財源は介護保険）

前日予約、エリアが課題。

インセンティブをどうするのか。

Bグループ

3世代同居が多い。

地域の課題として面積が広い。生活インフラが中心にはあっても周辺に無い。

継続性に懸念。

コンビニ移動販売は実現していない。

路線バス、オンデマンド、UBAR、⇒ 経費が掛かっている。

集落ごとに集まって病院などへの回送。

行政はどこまでお金を掛けるべきか。

共助の考えを持って地域がやっていく。

色々な補助金があるが横ぐしを刺して、トータルにやっていく。

Cグループ

行政は平等公平がゆえに、ニーズを追えば不便になる。

ニーズを詰めてバージョンアップすると稼働率が上がるのか。

折り合いをどうつけるのかは、それぞれの地域で考える必要がある。

Dグループ

〔現状〕

生活していく上で、駅があっても、市内循環バスも必要。

移動販売車があっても道路上ではダメ。

市街地にでるのに距離がありドア to ドアで、スーパーがモデル事業。

市民バスの利用者が少ない。

大型店が郊外になることで市街地の空洞化。巡回バスの利用者も少ない。

〔課題〕

利用者が少ない⇒病院との連携できるように規制を取り払えるか。

Eグループ

〔現状〕

買物支援について、年会費を貰って安否確認も。

スーパーが買い物バスを出している

自治会と事業者が維持するために定期的に協議している。

〔課題〕

タクシーの民業圧迫。適切な費用負担。ベストミックスを考える必要がある。

Iグループ

民間バス会社への補助金（3000万～4000万）

撤退したあとをどうするのか。福祉有償移送、タクシーなどあるが、地域の事情によって違ってくる。

福祉有償移送は、自治会で対応することでコストを抑えることが出来る。

地域協議会をつくって移送も含め、介護、医療など、地域で経営することを考える必要がある。

まとめ

行政としてどこまで支援するのか。地域ごとに事情が違う部分をどう埋めるのか。

住民が受益者負担することが必要。トータルとして地域住民が関わることも必要になる。

【講義Ⅲ】高齢者ドライバーの運転免許返納を提案する

【講義Ⅳ】世界経済の潮流

世界の経済情勢の中にアベノミクスをどのように位置づけるのか

① 落とし穴

反グローバルの落とし穴。

良識のある方、経済（人・モノ・金）のグローバル化を敵対視する傾向にある。

⇒格差が広がり、貧困が深刻になると懸念がある。

今の社会がおかしいのでは？という感覚で、反グローバルに進む。⇒国衰主義に進む。

マリーヌルペン

「右翼 VS 左翼ではなく、グローバル VS 愛国主義」

愛国⇒国家のために国民が奉仕する⇒危険に陥る場合がある。

グローバル化という現象

「強いものがより強く、弱いものを排除する」という現象に見える

⇒人・モノ・金が、容易に国境を越えていく、現象でしかない。

⇒どのように向き合うのか ⇒ハンドリングを上手くすれば良い方向に進む。

2つの特徴がある

その1 だれも一人では生きて行けない時代

東日本大震災で、一つの小さな部品工場が操業停止 = 世界の自動車生産が停止

最大・最強の産業であっても、最小の企業の支えがないと存続できない。

グローバル社会では、大きな強い企業であっても共生の生態系の中にある。

⇒助け合いがないと生きて行けない。

その2 だれも親分になれない時代

パックス・アメリカ、パックス・〇〇というような状態にある。

⇒だれにでもチャンスはある。

その特性を活かしグローバル化へ対応していく。

② 綱引き

民主主義を守るためにグローバルに手を結ぶ（光） VS 権力にモノをいわせる（闇）

③ お座敷

人の動き方に変化が出ている = 会社員⇒フリーランス（渡り職人）

（声が掛かると出かけていき、パフォーマンスを発揮して、報酬を得る。）

= ギグエコノミー=シェアリングエコノミー

フリーランス

やりたい事を、やりたい時に、やりたい所で、というところに魅力を感じる。

⇒働く者の権利が守られているところから、出ていくことを意味する。

[質疑応答]

Q：アメリカは、人の反グローバルを唱えているが

A：重商主義的で、輸出はするが輸入はしない。輸入は保護主義、輸出は自由主義。

Q：東京一極集中

A：是正しないといけない。首都機能移転も一つの考え方だが、そこに依存するということは、中央機能の分け前に預かることにならないか。足がかりとしては良いが、本質的には地方が小国として開かれた独自展開していく必要がある。そのためのシナリオに知恵を絞るべき。